



# 鳥獣保護管理調査コーディネーター

坂口 裕佳

かながわ鳥獣被害対策支援センター

対象鳥獣  
ニホンザル

活動地域  
神奈川県

事業内容

ニホンザルに係る専門的な技術的支援

事業の背景

神奈川県では、農作物被害の軽減及び生活被害・人身被害の根絶による人とニホンザルの共存を目指すとともに、長期的な観点からニホンザル地域個体群の安定的な存続を図ることを目的として、平成15年3月に「神奈川県ニホンザル保護管理計画」を策定し、現在の第4次管理計画に至るまで各種事業を実施してきた。その取組の中で、県内に生息するすべての群れに電波発信器を装着し、群れごとの行動域や性年齢構成等のモニタリング調査を継続することで、計画の進行管理や効果検証等に活用してきた。

依頼を受けて実施した内容

第4次管理計画に基づく各年度の事業実施計画の策定と事業実施に当たり、モニタリング調査の設計や効果的な事業実施に向けた技術的支援を行った。電波法を考慮した群れごとのチャンネルの配置や発信器装着スケジュールを立て、委託業務を運営した。

従来はVHF発信器を使用していたが、正確で効率よいデータ収集及び省力化を目的として、GPS発信器及びデータを自動的にダウンロードするための基地局を導入した。基地局の設置に当たっては、GPS発信器を装着するすべての群れの電波を最小数の基地局で効率的にカバーするため、事前に通信テストを行い、配置した。ダウンロードしたデータはインターネットを通じて、サル対策に関わる県内及び隣接する都県の自治体、対策従事者と共有し、追い払いや捕獲事業に活用されている。



写真1 GPS発信器首輪を装着したサル

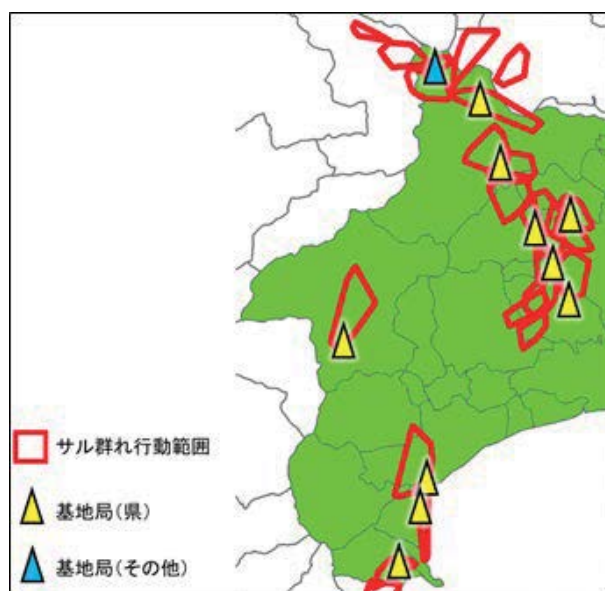


図1 神奈川県内のGPS基地局配置図

## 事業の成果

GPS発信器から得られた詳細なサルの位置情報により、正確な行動範囲や移動ルートが判明したことで、追い払いを強化すべき場所や捕獲わなを設置する場所の検討材料となり、対策の成果を上げることができた。また、基地局の導入によって、これまで現地に出向いて把握していたデータを遠隔で受信することができるため、サルの位置情報を監視しやすくなり、群れが通常の行動ルートを外れたことの察知や、群れ以外の集団の判別がしやすくなった。さらに、データ入力作業も減り、モニタリング調査を省力化することができた。

今後は、GPS発信器の電池寿命が短い、動作が安定していない等の課題について、技術的な改良が望まれる。